

午後 1 時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、お待たせをいたしました。定刻の時間となりましたので、ただいまより平成23年 7 月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、事業発表をいたします。

質問につきましては、事業発表、今日は 6 項目ございますけれども、事業発表についてからお願いしたいと思います。

事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の 3 番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。どうかご協力のほどよろしくお願いを申し上げます。

なお、終了は 14 時30分を予定いたしております。ご協力のほどよろしくお願いをいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、7 月の定例記者会見でございますので、事業等の発表をさせていただきながら、またフリーのいろんなご質問にお答えをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、あと座って発表をさせていただきます。

まず、平成23年度の職員採用候補者の後期試験の実施でございます。お手元に配付してありますとおりの試験区分、また採用予定の人数等でございます。やはり人材が非常に大事でありますので、しっかりとしたい人材を確保していきたい、このように思っております。

続きまして、この夏の節電対策であります。非常に暑い日が続いておまして、節電も非常に大切でありますけれども、熱中症等もございますのでそういうものに注意をしながら節電に努めていきたい、このように思っております。

そこで、今、クールスポットということで市民の皆さん方にご利用、また活用していただけますように、博物館、また山車会館、図書館などを 7 月 1 日、今日から 9 月30日まで無料ということで開放して、暑いときにはそこで昼休み等もとっていただけたらというふうに思っております。

また、本庁での節電でありますけれども、大変暑い日がこれからもどんどん続いていきますから、来庁者の方に一服の清涼感といいますか、氷柱などを立てたり、また氷が入ったペットボトルなどを配置したいというふうに思いますし、またエレベーターの間引き運転などもしていきたいというふうに思っているところでございます。

続きまして、節電ライトダウン2011ということで、これもお手元にチラシがお配りしてございますけれども、すでに始まっております。

また、その中において七夕のライトダウンということで、これは 7 月 7 日のこの時間帯に行うところでございまして、いろんな皆さん方に協力をいただきたい、このように思っております。

続きまして、23年度海開き式でございまして、5 年ほど前までは 7 月10日が海開きの日というふうに決めておりましたけれども、最近では 10日に近い日曜日としておまして、今年もちょうど、たまたま 10日が日曜日になりましたので、7 月10日に海開き式を開催いたします。大体例年のおりでございまして、今年はお客さんがどのようになるかはまだ未定でございますが、多くの皆さん方に来ていただきたいというふうに思っているところでございます。

次に、日中の児童親善使節団の派遣とまた受け入れ等の事業でございまして、ここに記載のとおりでございます。7 月21日からは市内の子供、小学 6 年生が 8 名と指導者 4 名、計 12 名が姉妹都市であります中国の浙江省台州市に派遣されるところでございます。また、7 月21日から 26 日は、私どもの親善使節団が派遣をされまして、記載のとおり、18 名が訪問をいたすところでございます。

次に、敦賀地区合同海難救助訓練の実施であります。毎年このシーズンになりますと海難事故が増えることが懸念されるところでございまして、発生時には関係機関の相互の連携、協力体制を確立しながら、迅速、的確な救助活動が行えますように、この訓練を行っ

ているところでございます。7月9日の土曜日、この時間帯で金ヶ崎緑地公園前の海面で開催をいたすところでございます。

以上で事業発表を終わります。

【秘書広報課長補佐】 どうもありがとうございました。

それでは、ただいま発表いたしました6つの項目について質問を受けたいと思います。最初に幹事社からお願いいたします。

【記者】 夏の節電対策でお伺いしたいんですけど、これ、ピークカットにしなかった理由というのはどういう理由なんですか。要は、一番不足するだろうと予測されている午後2時ごろではなくて、夜間のライトダウンとか、その理由を伺いたいと思います。

【市長】 この七夕のライトダウン等ですか、これはイメージ的に七夕が天気いいですと天の川を見れたりするということで、夜空も見やすいということも含めてこの時間。それと、氣比神宮の社フェスタがありますので、そういうものにあわせて行っております。

節電というやはり周知をする一つのものだというふうにご理解いただきたいと思ます。

【記者】 クールスポットのほうなんですけれども、昼の時間帯というのは大体何時ごろをイメージされているのか。12時から午後1時までの時間帯なのか、それとももう少し幅を持たせている時間帯なんでしょうか。

【市長】 これは、もう時間的にはオープンしている間、無料になっていますので。

【記者】 開館時間中ということですか。

【市長】 そうですね。

【記者】 ということは、もう朝から夕方までというとらえ方でいいのでしょうか。

【市長】 ええ、一応無料です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いしたいと思います。発表項目につきまして質問ございましたら、挙手をお願いいたします。

【記者】 同じくクールスポットの件なんですけれども、まずこれは7月1日から9月30日までほぼ毎日、市本庁では氷柱などを立てるというふうなことになるんですか。それとも、何か温度が設定されて、これ以上だったら立てるとか、どういうふうになっているんですか。

【市長】 今のところはずっと立てる予定なんですけれども、いろんな市民の皆さん方の声も聞こえてくるというふうに思いますので、いらないのではないかなればやめますし、好評でいいなということになれば続けていきたいなと思います。

【記者】 あと、これに係る予算というのはどこから出しているんですかね。あと幾らぐらいかけているのか。

【市長】 安いことは安いんです。

【総務部長】 予算はほとんどかかってございませぬ、氷代ぐらいのものなんです。氷代というのは、大体130キロぐらいの氷があるんですが、一人で持てないものですから、何分割かにして、させていたどころかと思っています。大体1個当たり1,500円ぐらいです。

【記者】 それと、これ、9月30日まで1個ずつ立てるということですか。それと、1,500円かける60日とすると結構な金額になるような気がするんですけども。

【総務部長】 土日とか休みの日はありませんし、基本的には。今日、実はもう多分セットできていると思います。見ていただくのが一番早いと思いますので、一度見ていただければと思いますが、一応市役所がやっているとき、その日につきましては計画上は9月30日までずっとやらせていたどころかというふうに思っていますが、今ほど市長からコメントございましたように、いろいろ声も聞こえてくるかと思しますので、その辺のことをいろいろお聞かせいただきながら進めさせていただくということになると思います。

【記者】 この氷柱なんですけれども、氷柱を立てると節電になるというのは、これちょっとよくわからないというか、氷をつくるだけ冷蔵庫を運転しなきゃいけないと思ってしまうんですけども。どういう論理というか、理屈なんでしょうか。

【市長】 周りに行けばちょっと涼しいということもありましようし、見た目の清涼感ですね。ひんやりするというその一服の清涼感です。

【副市長】 今、無理して午前中は冷房を止めているんですけども、何て暑いんやとい

うことも言われる来庁者の方もおられるんです。ですから、温度というような、そういうデジタル的な感じではなくて、清涼感をやっぱりちょっとでも感じてもらおうかということなんです。

これは実験ですから、初めての試みですから。それでやっぱり評判を聞きながら進めるものは進めるし、それはなかなか合わなかったなということなら、市長も言われたように少しやることをためらえばいいと思います。

【記者】 節電対策なんですけれど、例えば市役所のほうで、例えば市の節電何%削減とかという目標とか、例えば今回これやることによる節電、どれぐらい節電できるのかという予測というのはあるんでしょうか。

【総務部長】 庁舎ということによろしいですか。

庁舎の場合は、今の現時点でこのまま、例えば今電灯だと25%ぐらいの間引きで点灯をさせていただいておりますし、7月1日以降は廊下につきましてはまず消灯しよう。暗くて歩きづらいとかそういうところは別ですけども。

それからあと、今ほど発表にもありましたように、エレベーターの間引き等をやりますので、このままでは大体5%ぐらいだと思っておりますが、そういうことを兼ね合わせてやることによって多分10%を目指したいというふうに思っています。

もう一つ、パソコンの関係ですね。これの画面照度を落とすということで、50%に落とすことを今考えておまして、これはいろいろソフトの関係で検証しなくてはいけない部分がありますので順次やっていくことになると思いますが、そういうことを組み合わせながら10%を目指していきたいと、こういうことです。

【記者】 去年たしか25%電灯の間引きされたと思うんだけど、それプラス廊下の消灯。それとここに書いてあるエレベーターの間引き、あわせてパソコンの照度というのをこれから順次していくと。あわせて、今やっているのよりもさらに10%削減という理解でよろしいですか。

【総務部長】 トータル、今プラスアルファで5%、10%ということなんです。

例えば今申し上げた、ほかにも市民ホールについては50%以下に抑えております。今現在、今日もやっていますけれども、照度をかなり抑えているというところもありますので、5%プラスアルファ10%でなくて、トータルで10%を目指していきたいなと思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、次第の3番目に移りたいと思います。

フリーの質疑応答へと行きたいと思います。

これも幹事社から、よろしく願いいたします。

【記者】 高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置が先日引き揚げられました。それについての感想を一言お願いできますか。

【市長】 この中継装置につきましては、慎重の上にも慎重に作業を進めて無事に中継装置を抜くことができたわけでございまして、それは取り組んだ皆さん方も本当に慎重に、今ここで何かあったらもうもんじゅの明日はないというぐらいの気概を持って取り組んだ成果だというふうに思います。

今後慎重にいろんな事業については、安全面をよくチェックしてほしいなというふうに思います。

【記者】 その関係で、一応機構側は今年度中というか、今年度末の40%出力試験目指していますけれども、市長はどのようにお考えですか。

【市長】 これは、機構さんがそういうような思いで進めているわけでございますし、もともと私も議会等でもお話をしておりますとおおり、やはり一刻も早く正常な状態に戻していくということは重要なことというふうに思っております。

ただ、福島のことですいろいろな影響を受けて、心配する皆さん方もいらっしゃると思いますので、十分そのあたりは機構も説明をしていく必要があるのではないかとこのように思います。

【記者】 昨日、市議会が閉会しまして、今回は原子力発電所特別委員会で一部議員から、国へエネルギー政策の見直しを求める意見書が出されて、それを一旦可決して、また否決したりという、余りちょっと聞いたことのないような展開をたどったと思うんですけれども、これについては一段落ではないですけども、今の市長の受けとめをお聞かせください

い。

【市長】 これは、議会の皆さん方のご判断される所でありまして、最初の委員会のほうでは全会一致で採択ということでありましたけれども、これは議会の皆さん、昨日の討論を聞いていた話ですが、マスコミの皆さん方の報道の中で脱原子力発電所というふうにとられるという判断をされて、そうではないと。やはり原子力発電所も敦賀のまちでこれからもある程度共存共栄をしていかななくてはならないという思いの中で、ああいうような修正が行われたわけでありまして。

そういう意味で、安全確保をしっかりとやろうという思いでありますので、これは議会の大事な意思だというふうにと受けておられるところであります。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社質問ございましたら、挙手をお願いしたいと思います。

【記者】 ちょっとこれにこだわるのも申しわけないんですけども、橋下知事から回答で手紙をいただいていた。その後、その日のうちにコメントとして、もう一度手紙をやりとりをしたいというふうなお話があったと思うんですが、その手紙のやりとりというのはいつごろとか、今日用意していらっしゃるとか、何かそんなのありますでしょうか。

【市長】 いろいろ考えてはいたんですけども、その後もいろいろと橋下知事には関西広域連合の中でもああいう話をされておられますので、今言ってもあんまり意味がないかなということで、今のところ出すのはやめようかなと実は思っております。

また機会があってお会いするようなことがあれば、やはり直接お会いしてこうですという話はしたいなとは思っておりますので、また機会を見て、そのようなことができればなというふうには思っています。

【記者】 すると、面談をする予定をしているとか、そういうのは全くないということですか。

【市長】 まだちょうど私も議会がありまして、昨日終わったばかりでありますので、また様子を見ながら、ちょうど電力の一番要るような時期を狙って、一度お会いしたいなと思っております。

【記者】 手紙をやめようと思った理由というのは何なんですか。

【市長】 あの手紙の返事のほうもちょっとポイントが実は外れてまして、そういう面でもやはり今、知事の中で時間軸であるとか、こうやりたいということも恐らくまとまらないからああいう返事になっているというふうには思いますので、今それを慌ててまた出して聞んでも同じような答えが返ってくるなという気がいたしましたのと、やはりこれはお会いして直接お話するのが一番いいかなと思っておりますので。

【記者】 定期検査中の原発の再稼働について、経済産業省のほうは立地の理解を得たい。できるだけ早く認めてほしいという主張ですけども、敦賀の場合はまだ若干時間があるんですが、改めて市長の考えと定検が終わった原発を再稼働させるということについての考えと何か国に対してもうちょっと立地としてこういったことを求めていきたいというふうな、何か求めるようなものがあれば。

【市長】 現に佐賀県の玄海町のほうで海江田大臣と知事、また町長、隣接の唐津市の市長もお会いになったというふうには聞いているんですけども、お話をされて稼働に向けて前向きな発言があったということは報道で見たところでございます、それぞれの地域によって原子力発電所も立地している条件が違ふと思っております。そういう観点から、一番佐賀県のほうは再稼働に向けてやはり電力が非常に不足を予測される昨今の中で、海江田大臣との話の中でそういうふうには動いていったのではないかなというふうには思います。

敦賀の場合は、今ほどお話ございましたけれども、来年の3月まで定期検査も終わらせないので、その状況を見て判断すべきで、今直ちに判断するというような時期でないということをおもっておりますし、知事におかれましてはいろいろと国に対する話もしているようでございますので、より安心になるような形で取り組んでいただけたらなというふうには思っております。

国に対する要望というのは、やはりしっかりと安全規制体制、また原子力、エネルギーというものをこれからどうしていくんだという、そのような体制を強化する必要があるということは私常々申し上げているとおりでありますので、ぜひそのような体制を早急

につくっていただけたらなというふうに思っています。

【記者】 ちょっと原子力と離れるんですけれども、敦賀短大の公立大学化で、先日、特別委員会では大体年間でフルに200人になったときに3億4,400万円という運営費交付金が市からあって、26年からの4年制大学という方針が示されましたけれども、特別委員会を見ている限り、かなり市議会のほうの反発が強いようには感じたんですけれども、そのあたり市長としてはどうお感じになられているのでしょうか。

【市長】 確かに人材育成、それとまた医療関係者でありますので、これからますますそういう人材が必要になる中で、いい人材を育成するための一つの、それも子供たちの志向、専門学校から短大、短大から4年制大学という流れの中で私どもは4年生大学ということを出して審議をいただいています。ただ、やはり議会というのは市民の代表者の集まりでありますので、そういう意思を決めるところでありますから、そういうところが予算的にどうしてもだめだとなれば、また違うことを考えていかななくてはならないなというふうに思っております。

ただ、私どもは私どもの立場の中でお金はかかります。これは人を育てるといふ分野ではお金がかかるに決まっておりますので、それは本当に必要な人材を育てていく分である程度の予算を投下していくということは、これはもう必要なことだと思いの中でこれからも市議会に十分説明はしていきたいというふうに思いますけれども、最終的に議会のほうでそれだけのお金を投資していくのはだめだというようなことになれば、それはまた改めて考えなくてはならないなというふうに思っています。

【記者】 あとは、一応6月の補正予算では短大関係の予算というのは計上されていないと思うんですけれども、一応9月ぐらいでは何らかの形で短大関係の予算というのは計上されてくることになるのでしょうか。

【市長】 短大関係といいますと、先生方に対するものとか、そういう予算ですか。

短大は、もう既に3月の最終に予算計上してお認めていただいていますので、大体今年1年のやつは問題ないと思ひまして、来年は来年でまたしますから。

【記者】 公立大学法人化に係る予算ということですね。9月のほうで立てるような形ですか。

【副市長】 今、実は特別委員会もできましたので、やっぱりそういう状況の中で計上するかしないかは判断していかなければならないのかなど。やっぱり非常に、今、言われたようなところはひしひしと伝わってくる中で、いくら9月に予算を入れても、それはなかなかもめるだけですよね。やっぱりそこら辺はもう少し柔軟に考えていきたいと思うんですけれども。

【記者】 駅西の話とかですと、大分、市長の提案理由説明の中でももう一度立ち止まってとかいう、ちょっと再検討という言葉も出てきたと思うんですけれども、大型事業について、駅広の話とか、駅周辺の整備に関しては、短大に関してもやっぱりそういうふうな、立ち止まってもう一度検証するとかいうこともあり得るということなんでしょうか。

【市長】 副市長の話にもありましたように、物事というのはそういう場面が今必要なときもあるんじゃないかと思ひます。まして、今このような震災復興ということで非常にそちらのほうに力を入れていかななくてはならない日本全体の状況でありますので、うちだけは何が何でも全て前へ進めてどんどんやれというわけにもいけない状況も続きますので、そうすると原子力行政についてもちょっと不透明な部分もあります。私どもは原子力と共存共栄をするまちづくりを進めるということで、これは議会もほとんどの皆さん方が意識して取り組んではいただいています、不透明な部分もございまして、そういうことを見据えながらいくと、やはりある程度立ち止まって考えるということも必要な時代でありますので、短大問題も含めて、そういうことはあり得るかもしれません。

【記者】 話ちょっと戻るんですけれども、再稼働について市長の考えというのは立地地域として国に求めるものというお話があったんですが、敦賀原発3・4号機、現在、安全審査中なんです、これについて、一つは国に市長として求めるもの、安全審査をどういうふうにしてほしいかと。もう一点が、事業者にどういうふうに関後対応してほしいかについてのご意見を。

【市長】 3・4号機を前へ進めるという前提のことを考えていけば、やはり国に対して

は今回の福島のいろんな知見を入れながら、より新しい、より安全ない発電所をつくっていくためにいろいろと安全対策等の見直しなども含めていい対応をしていただきたいと思いますし、事業者に対しても自分たちの発電所は福島のようなことには絶対させないんだという強い思いの中で、立派な3・4号機をつくるべく努力をしてほしいなというふうに思います。

【記者】 その関係で、現在も臨海部というか、敷地内では防波堤とかどどんつくっていますよね。本体部分を除く部分で。それについて事業者に立ち止まっていたきたいとか、そういうお考えはございませんか。

【市長】 安全のために、特に今回の福島の事故が大津波が原因であるということがほぼ確定をしてきている状況の中で、確かに日本中がそういうような津波が起こる条件にあるのかというと、私はそういうことはないというふうに思っていますので、敦賀半島の先にあるという部分を考慮した形で、それなりの津波対策というのはとっておくべきでありますし、立ち止まるというちょっと意味がわからないんですけども、私どもは3・4号機についてはしっかり前に早く進めてほしいと思っている一人です。

【記者】 先ほどの再稼働について、またちょっと絡めてなんですけれども、大阪の橋下知事が八木社長、また経済産業大臣に対して、再稼働をしないと15%節電やというようなものを出して、それは靈感商法やと言うてると。それに関して、立地地域の自治体の長として、また全原協の会長としてどういうことを思われるか、お伺いできますか。

【市長】 私、靈感商法であるという部分はちょっと記事で見なかったものですから、八木社長等とも話をしているいろいろ議論もあったようでございますけれども、それは橋下知事なりのお考えの中で言われたことでありますので、コメントは差し控えたいと思います。

【記者】 これは木村副市長の MATER になるかと思うんですが、県が計画されているこの秋の原子力防災総合訓練でしたか、今わかっている範囲で結構なので、いつごろ実施でやるとか、内容的にはどんなふうになるかとか、それに向けての準備であるとか、それから敦賀市としてそれに向けてやらなければいけないこととか、教えていただけますか。

【副市長】 議会のほうでも質問が出たわけなんですけど、今、国、県のほうでそのあたりをどうするかという形で詰めているところでございますし、まだ時期等について、またどういう形でやるか等については全くわからないような状況でございます。

【記者】 例年、若狭地区の自治体で順繰りにやっていますけれども、敦賀久しぶりではありますよね。例年であればもうこの時期には準備は何がしかの形でかかっておられると思うんです。今の時点で時期も内容も白紙だとすると、逆算すると遅くても早くても、どの時期には実施される、もしくは今年度中は実施できないのではないかと、そういうような危惧というのはお持ちでしょうか。

【副市長】 今おっしゃるように、今の段階で何も決まっていないというような状況ですし、当初は10月ごろにという話もあったわけなんですけど、今、全くその時期もわかりません。今年中にできるのかどうか、その辺も含めて国、県のほうで検討されているというふうに思っております。

【記者】 先ほどの敦賀原発3・4号機のお話で、それなりの対策をとってもらおうと。一回立ち止まってみてはどうですかというこちら側からのお話を振ったときに、立ち止まる意味がわからないというお話だったんですが、『兼見卿記』とかで津波被害がありましたよというのが出てますよね。そういうのをしっかり調べて対策をとらなくていいんですかという意味で、安全対策をしっかりとらさなくていいんですかという意味でお伺いしたんですよね。それについてはどうですか。

【市長】 文献のやつを調べるということで、関西電力さんも何か動いているようでございますけれども、それが地震による津波であったのか、台風による大波、大潮であったのか、そのあたりもはっきりしておりませんし、文献上でいく限り、私どもの地域で10メートルも15メートルもの津波が起きるとは私は思っておりません。科学的といいますが、地形的に見てもそういうことはほぼないであろうというふうに私は思いますけれども、それは科学者の皆さん方がどう判断されるかでありますので、そういうことも並行して、もちろん調査をして対応していただければ、より安全になるものであればいいなというふうに思います。

そういう意味で、やはり3・4号機についてはそういうものを並行して、立ち止まらなくても並行して調査をして、なるべく早く本体着工に入るべきだと思いますし、ただ、まだ安全審査のほうになかなか終わってないということでもありますので、これはきっちり終わらせてから当然進めるべきものでございますので、そういう面でもスタッフがやはり国は今足りないというような状況だと思いますので、そういう分野についてもしっかりといい人材を確保しながら、安全対策についても取り組んでいただきたいなと思っております。

【記者】 ちょっと話戻るんですが、そうすると、早く敦賀3・4号機をつくっていただきたいというお話で、敦賀3・4号機が早くできるのであれば敦賀1号機は早く止めてもらいたいのか。もう一つ、現状として今回の津波対策とかいろいろな対策をしても全部で46年しか動かせないわけですね。原電さんが言っているのは46年で、あと5年切っちゃっているのかな。その現状を見たときに、市長としては敦賀1号機についてはどうしてほしいという要望とかはございますか。

【市長】 もちろん、今定期検査の中で安全なものにしていってもらうことがベストだというふうに思いますけれども、いろんな話の中で、マークI型といいますか、福島と同じような形であるということも踏まえて、例えば今、福島のほうの知見の中でそういう状況になってくれば、動いてもそう期間的にならないことも事実でありますので、逆に言えば3・4号機を早く進めて、1号機を早く廃炉に持っていくということも選択肢の一つにあるんじゃないかなというふうに思います。そのほうがより安全というものについて、また安心というものにはつながっていることもありますけれども、まだしばらく定期検査も続いておりますので、その状況などはしっかり見きわめていきたいなと思います。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございませんでしょうか。

それでは、これもちまして7月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後2時05分 終了